



自主防災

地域の防災力向上へ七尾市の動き

災害時要援護者避難支援制度を導入予定

七尾市では災害時に自力で避難することや情報収集が困難で第三者の支援が必要な人（災害時要援護者）に対し、地域住民が協力して、避難・救護・救援などの減災活動を行う制度を導入する予定です。

任意の登録制度（台帳登録）

登録の要否は要援護者自身（家族などを含む）の判断であり、支援する側の地域住民に責任を課すものではありません。

個人情報情報を地域に開示することが条件

- ① 地域住民の「共助」により成り立つ制度であり、要援護者の個人情報とは平常時から地域に開示し、災害時に備えます。
- ② 災害時に支援を必要とする人は、日常生活においても支援を必要としている場合が多い。また、いざという時には普段からの付き合いを通して情報を共有していただければ効果が発揮されません。

地域で「助け合う」ことが大切

- ① 近所付き合いの希薄化、個人情報保護への過剰反応により、近所などのような人がいるのかもわからない状況では災害時に不安があります。
- ② 過去の事例（大災害・大水害など）から、災害時には「地域で助け合う」ことにより多くの人が助け出されたことが証明されています。

地域づくりに効果大

- ① 平常時から情報を共有することで、地域の中での問題意識が高まり、地域福祉の推進に役立ちます。
- ② お互いが地域に関心を持つことで、地域のつながりが強化されます。

詳細については、広報ななおで来月号以降、随時お知らせして行きますので、ご協力をお願いします。

※この制度に関するお問い合わせは
福祉課健康福祉政策室

☎ 53-8418

七尾消防署内に地震体験対策ゾーンを開設

阪神・淡路大震災などの揺れを再現する起振装置を使用した地震に対する備えなどについて学ぶことができる施設。震度6から震度7の揺れも体験できる。



緊急地震速報が、10月1日にスタート

緊急地震速報は、最大震度5弱以上と推定した地震の際に、強い揺れ（震度4以上）の地域の名前を揺れがくる前にテレビ、ラジオなどで知らせるものです。

震源から離れるほど猶予時間が長くなりますが、近い地域では数秒しかないため、その間に身を守る行動をとる必要があります。しかし、短い時間でも事前に揺れがあることを知ることで、身の安全を確保することができまます。



あたまをまもる



かくからはなれる



へいからはなれる

開設時間

8:30～17:00

申込み先（要予約）

七尾消防署

☎ 53-1030

取材後記

能登半島地震から、もうすぐ半年。被災された方は、まだまだ復興の途中にあり、七尾市もその再建支援に全力で取り組んでいます。

今回の取材で感じたことは、「地域の人々と協力し、助け合うことが防災には不可欠」だということです。人は一人では、生きられません。災害の教訓を今こそ生かすときです。

あなたにとって、家族はどんな存在ですか

家族の絆

親によるわが子への虐待や引きこもりなどの家庭崩壊、いじめや自殺・少年犯罪の低年齢化など、家庭や地域での子どもへの教育力低下が大きな社会問題となっています。七尾市と七尾市社会教育委員では、「家族の絆」をテーマにしたエッセイを募集し、入選作品を7月号からシリーズで紹介しています。

これらの作品を読んで、一人ひとりが「家族とは何か。」を考え、「お互いを思いやり、支え合う心」を育むきっかけになることを願います。



優秀作品

「みんなで助け合い！」

天神山小学校6年 高橋 理子さん

私がなぜ、この題名を書いたかと言うと、私のじいちゃんが去年、亡くなりました。その時、じいちゃんが入院していた時に、みんなが、じいちゃんを助け合いました。



もちろん、お母さんやばあちゃんがいそがしい時は、私や、私のお姉ちゃん達も行き、車いすで散歩をしたり、一緒にテレビを見たりしていました。

そして、ばあちゃんが言うには、私達が行くと、ご飯をがんばって食べてたらしいです。

そして、じいちゃんが病院のマットは寝にくいと言うので、私と姉で低反発マットを買いました。じいちゃんはうれしそうでした。

そして、じいちゃんに外出許可がでて、家にもどりました。じいちゃんは、安心してたのか、ご飯を食べるとぐっすり寝ていました。

そして、病院にもどると、汗をふいたりしました。そして、ばあちゃんの兄弟も心配して来てくれました。こうしてきながらじいちゃんは9月28日に亡くなりました。

お母さんは、みんなが助け合ってくれたから、じいちゃんもがんばったし、お母さんも、がんばれたと言っていました。

私は、悲しいけれど、くいはありませんでした。なんとなくお母さんと同じ気持ちになりました。だから助け合いっていいなと思いました。

今でも、じいちゃんの夢をときどき見たりします。

優秀作品

「むぎゅっ！」

中島小学校2年 山下 千奈さん

わたしのおかあさんは、わたしを「むぎゅっ」と、だきしめてくれます。

あさおきたとき、テレビをみているとき、学校からかえってきたとき、ベンキョウやピアノをがんばったとき、お手つだいをしたとき、「むぎゅっ」と、してくれます。「むぎゅっ」と、いつもしてくれるからうれしいです。

おかあさんは、石けんやおけしょうのいいかおりがします。

おかあさんは、わたしのまるいほっぺがすきです。ゆびでツンツンつつきます。

いつも「むぎゅっ」と、してくれるおかあさんが大好きです。これからも「むぎゅっ」と、してほしいです。